

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おーじやん児童発達		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 12 月 1 日 ～ 令和 6 年 12 月 20 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和 6 年 12 月 1 日 ～ 令和 6 年 12 月 20 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 6 年 12 月 27 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達特性や児童の置かれている環境についての理解	職員は、自社やその他の研修プログラムを受け支援内容に反映している。児童の様子を日々観察し児童の立場になって物事を考えています。職員同士の意見交換などを通し発達特性の理解につなげています。	多角的に児童を見ることができるよう、職員がしっかり連携するとともに、関係各所との情報共有、研修を通してのスキルアップを目指していきます。
2	支援員同士の連携	児童発達管理責任者を中心に朝礼、終礼、アセスメントミーティングなどを行いチームとして療育に取り組んでいます。	チームワークの向上に向けて、仕組みやルール整備の徹底を行って参ります。
3	専門的手法を用いたコミュニケーション支援	絵カード交換式のコミュニケーション支援や、言葉を引き出す関わり方を専門的知見に基づいて学び、児童に対してコミュニケーションの幅を広げる関わりを行っています。	支援の質を高めるために、これまで以上に見識を深め、児童との関わり方の精度を高める取り組みを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との面談や交流会などの家族支援	職員の家族支援に関する専門的知見のが十分ではない。面談や交流会を統括できる職員の不足。	研修や自己研鑽による家族支援に対する専門性を高めるための取り組みが必要。
2	家族との交流を含むイベントの実施	イベントを企画する職員の人員不足や、安心安全に行うだけの体制が不足している。	研修や自己研鑽による家族支援に対する専門性を高めるための取り組みが必要。
3	関係機関との連携や地域の児童との交流	関係機関と連携する場所や機会が持てていない。また、そういったイベントを企画するだけの体制が不足している。	研修や自己研鑽による家族支援に対する専門性を高めるための取り組みが必要。